



総研大ニューズレター

第28号 2010.9 発行

●目次

【今月のトピックス】	「国立天文台野辺山宇宙電波観測所 電波天文観測実習開催 国立天文台」
	「極域科学専攻大学院説明会開催 極域科学専攻」
	「JAXA相模原キャンパス特別公開開催 宇宙航空研究開発機構」
	「核融合科学研究所 東京イベント『Fusion フェスタ in Tokyo』開催 核融合科学研究所」
	「第3回中高生のための科学セミナー開催 総務課」

【各種募集】

【イベント情報】

主なイベント予定

9月25日 日本歴史研究専攻 大学院説明会

9月28日 統計科学専攻 学生研究発表会

9月30日 学位記授与式

10月7日 入学式

11月6日～7日 文化科学研究科学術交流フォーラム

11月10日 情報学専攻 入試説明会

11月12日 統計科学専攻 大学院説明会

【今月のトピックス】

● 国立天文台野辺山宇宙電波観測所 電波天文観測実習を開催

国立天文台野辺山宇宙電波観測所では、総研大「夏の体験学習」として理科系の大学生を対象に電波天文観測実習を毎年実施しています。この実習は、可視光での観測に比べて大学生にあまり馴染みのない電波天文学について知ってもらうとともに、将来この分野の研究者として活躍する人材の発掘も目的としています。実習では、研究の最前線で活躍する45m電波望遠鏡を使って観測してもらい、研究者が普段行っているのと同じように、データリダクション、データ解析といった研究の手順を体験してもらいます。

今年は8月2日から6日までの4泊5日で開催しました。参加者は書類選考で選ばれた8名の大学生で（東北大学、東京理科大学、東京工業大学2名、奈良女子大学、甲南大学、京都大学、愛媛大学）、4人ずつ2班に分かれて実習を行いました。実習の内容は、観測条件の悪い夏でも



観測が可能な20GHz帯のアンモニア分子輝線を用いて、星が誕生する現場となる銀河系内の分子雲（分子ガスの塊）を観測し、分子ガスの光学的厚さや温度といった物理状態を調べ、他波長で見られる星形成活動との関係を考察するというものです。今年は、45m鏡の主鏡面パネルの修理のため、いくつかのパネルが外されていて、主鏡面に穴が開いた珍しい状態で観測が行われました。（多少性能は落ちますが、今回の観測には問題ありません。）二日間の観測時間のうち初日は天気が悪く、データが取れるか心配さ

れたのですが、幸い二日目には天気も回復し、十分なデータを得ることができました。その後のデータ解析では、毎日午前2時、3時くらいまで班内での議論を行っていたようで、皆さんやや寝不足気味でした。最終日前日に、所員も含めた成果報告会が開かれ、その後にささやかな懇親会を開きましたが、懇親会後も参加者の皆さんは別れを惜しんで、また、実習中は忙しくて見ている暇がなかった野辺山の星空を見ようと、明け方まで観測所構内を一緒に散歩していたようです。

(残念ながら曇ってしまいましたが。)

ほとんどの参加者にとって電波天文学というのは馴染みがなかったようですが、実際に電波観測を行ってみて、その面白さを理解していただけましたようです。将来、電波天文の道に進みたいと言ってくれた人もいましたので、総研大へ進学してくれる人もいるのではないかと期待しています。



45m 鏡を操作する参加者

【文責 天文科学専攻 久野成夫 准教授】

● 極域科学専攻大学院説明会を開催

7月24日(土)の国立極地研究所一般公開に合わせ、極域科学専攻の大学院説明会を開催しました。説明会では、山岸専攻長による専攻の概要、入試についての説明に引き続き、総研大修了生である本研究所・高橋晃周准教授が「ペンギンの目線で南極を見る」と題して講演し、自身の総研大生として研究の歩みをふりかえった後、ペンギンに小型のデータロガーを取付け、海中

での未知な生態を探る研究の最前線を紹介しました。約90名の来場者は講演を熱心に聞き入り、活発な質疑応答がありました。

また、教員による大学院入学相談や、総研大在生による研究紹介のコーナーが設けられ、約360名の来場者がありました。研究紹介コーナーでは、実際にフィールドワークで利用している道具や、研究成果ポスターの展示、野外調査の情景を撮影したビデオ上映が行われ、来場者からの質問に答える総研大生の姿が印象的でした。



専攻長による総研大概要、極域科学専攻概要説明



総研大生によるポスター発表等



高橋准教授の講演

【文責 極域科学専攻】

● JAXA相模原キャンパス特別公開と「はやぶさ」再突入カプセル特別展示開催

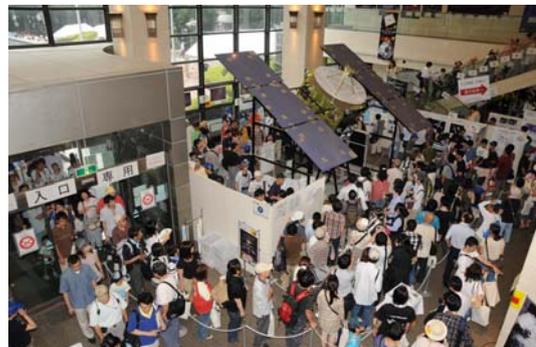
総研大宇宙科学専攻の拠点である JAXA 相模原キャンパスでは、毎年恒例のキャンパス公開を 7 月 30 日（金）、31 日（土）の 2 日間にわたって開催しました。昨年初めて 2 日間連続での公開を試行したところ好評でしたので、今年もそれを踏襲しています。また、今年度から名称を「一般公開」から「特別公開」に変更しました。これも、昨年 5 月から展示室や屋外ロケット展示が常時公開されたことを踏まえてのこと。キャンパス公開は進化し続けています。

さて、この特別公開ですが、何といたっても今年の見玉は小惑星探査機「はやぶさ」の再突入カプセルの世界初公開でした。当初はキャンパス内での公開も検討しましたが、特別公開と両立できる会場が見当たらないこと、待ち行列を含めた全ての来場者をキャンパス内に収容することはできないと思われること、展示は展示に慣れている人にハンドリングを任せる方がよいことなどの観点から、隣接する相模原市立博物館の特別展示室をお借りすることになりました。博物館には実施中の特別展示を撤収してまでして全面協力いただくことになりましたし、市の各部署からの支援も得られましたが、これも、ここ数年で築き上げてきた相模原市との強固な協力関係の賜物です。

当日には、会場となった相模原市立博物館には、朝からカプセルの観覧待ちの長い行列ができ、初日の開場時には 2100 名もの列となりました。実は、特別公開の準備期間と当日に実行委員長である私が行ったことは、この待ち行列の制御に尽きました。待ち行列はピーク時には 3 時間を超えたようで、行列は博物館の入口から始まり、テントを張った博物館裏の駐車場を蛇行し、整備中の散策路の木立を抜けて歩道に戻り、途中で横断歩道（バス以外通行止め）を渡って相模原キャンパス側の歩道へとつながり、正門からキャンパス内に入って折り返し、キャンパスの柵沿いにまた延々と延びていきました。時々刻々と変化する行列の最後尾を見つけるのに苦労された方も多かったものと思います。特別公開の第 4・第 5 会場の入口を待ち行列がふさぐ事態まで発生したので、一旦待ち行列の受付を中断し、事態を收拾する必要があったぐらいです。



カプセル展示



「はやぶさ」実物大模型



金星大気の 90 気圧を体験



世界初の宇宙ヨットーイカロス

大幅増が予想されたメインキャンパスの来場者数は、初日が 14216 名、2 日目が 19645 名で、合計で 33861 名となり、初日だけで昨年度の 2 日分の来場者数を超えました。相模原の狭いキャンパスに収容できる人数としては限界といえるでしょう。博物館のカプセルの特別展示の方は、初日が 13000 名、2 日目が 17000 名だったとのことですが、聞き取り調査を行うと、待ち行列のあま

りの長さゆえ、どちらか片方だけをご覧になった方もかなり多かったようです。ごく大雑把な見積もりですが、2日間のトータルで約5万名の人出だったのではないかと思います。総研大のブースにも多くの来場者がありました。

それにしても、1日目の状況をみながら2日目の「混雑感」を緩和するように現場が自律的に考えて動いたのはさすがでした。これで2日目の混雑感は初日のそれよりは改善されたようです。待ち行列の並び方の工夫なども奏功し、熱中症等により緊急車両で搬送される方もなく、イベントを楽しんでいただきました。特別公開後も連日数百名の見学者が訪れており、しばらくは暑い夏が続きそうです。

【文責 宇宙科学専攻 阪本成一 教授】

核融合科学研究所 東京イベント「Fusion フェスタ in Tokyo」を開催

自然科学研究機構核融合科学研究所（小森彰夫所長）では、「Fusion フェスタ in Tokyo～核融合はここまで来た！ヘリカルが切り拓く未来のエネルギー～」と題し、去る7月24日（土）に、東京お台場にある日本科学未来館においてイベントを開催しました。

核融合研究の進展は著しく、夢から現実の目標に変わってきており、国際協力により建設中のITERという実験装置では、実際にプラズマを燃やす研究を目指しています。また、核融合科学研究所におけるLHDを始めとする核融合研究の進展も著しく、国際的にも重要な役割を担っており、今世紀中頃には核融合発電の実現が期待できる段階にきています。こうした状況の今、核融合に関連した様々な催しを行い、関東地区において核融合研究の現状を広く社会に知っていただくため、本イベントを企画しました。

当日は、NHKの山田賢治アナウンサーに司会進行をお願いして講演会を開催するとともに、各種工作教室及び科学実験教室等のイベントも催し、約1,000名の参加者がありました。

また、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）活動に関連して、都立科学技術高校からの参加もあり、超伝導列車が実演されました。



核融合科学研究所長とNHK山田賢治アナウンサーによる講演会の模様



マスコットキャラクタープラズマくんがお出迎え



工作教室（セラミック折り紙）



科学実験（真空）

【文責 核融合科学研究所】

● 第3回中高生のための科学セミナー

「チョウはなにを見ているの？－動物の感覚世界のふしぎ－」を開催

7月28日（水）、横須賀市自然・人文博物館にて、中高生のための科学セミナーを開催しました。このセミナーは総研大の地域社会交流プログラムの一環として、2008年度から開催されており、今回は中高生の他、小学生や保護者も含めて計66名の参加がありました。

今回は講師として先導科学研究科の蟻川謙太郎教授を迎え、「チョウはなにを見ているの？－動物の感覚世界のふしぎ－」と題して、2時間の講義を行いました。

話は「チョウの眼の構造」から始まり、「チョウの色覚や波長に関しての人間との比較」「チョウには人に見えない偏光が見えていること」「チョウはおしりにも、光を感じる“眼”があること」など、詳しい説明がなされました。これらは膨大な数の実験結果により得られるものですが、蟻川教授は「サイエンスはやればやるほど疑問が湧いてくるものであり、それがサイエンスの面白い所」と語られました。講義が終わった後も、生徒たちは講師を囲んで様々な質問をしていました。

アンケートの感想では、「生き物は全部同じように見えていると思ったが、全く違うことを知って驚いた」、「最初は簡単そうな内容だと思ったが、考えていたより奥が深いと感じた」、「実験の発想が凄い」など、科学の面白さ、また身近にいる生き物と自分たちの見えている世界の違い、不思議などを感じ取ったようです。また、「面白かった」という感想がとても多く、普段の授業ではなかなか聞くことのできない、科学の面白さや奥深さを知ってもらえたようでした。



【文責 総務課】

【各種募集】 現在公募中の情報

事 項	応募期間	提出先
平成22年度(第16回)総合研究大学院大学 長倉研究奨励賞 http://www.soken.ac.jp/student/guide/nagakura.html	平成22年9月修了見込み の者：平成22年9月30 日(木)まで 平成23年3月修了見込み の者：平成22年12月16 日(木)まで	総合研究大学院大学 学務課研究協力係
国立天文台滞在型研究員	随時(滞在希望初日の前 月1日まで)	国立天文台研究支援係
学融合推進センター 研究論文助成 http://center.soken.ac.jp/act/thesis.html	随時	総合研究大学院大学 総務課葉山事務室
平成22年度 みんぱく若手研究者奨励セミナー 受講者募集 http://www.minpaku.ac.jp/offer/wakate_seminar2010pd.pdf	平成22年9月30日 (木)まで	国立民族学博物館 研究協力課

【イベント情報】

●総研大の行事

9月

日程	時間	行事名	場所
8月中旬 -9月15日(火)		サマースチューデント(夏の体験入学)第2期	国立天文台
http://guas-astronomy.jp/ss2010.html			
25日(土)	13:00-16:00	日本歴史研究専攻 大学院説明会	国立歴史民俗博物館
http://www.rekihaku.ac.jp/kenkyuu/souken/index.html			
28日(火)	10:00-17:00	統計科学専攻 学生研究発表会及び専攻修了式	統計数理研究所 2階 会議室
30日(木)		学位記授与式	葉山キャンパス

10月

日程	時間	行事名	場所
7日(木)		入学式	葉山キャンパス

11月

日程	時間	行事名	場所
6日(土) -7日(日)		文化科学研究科学術交流フォーラム	TKP東京駅八重洲ビジネスセンター3Aホール(3階)
10日(水)	17:00-19:00	情報学専攻:入試説明会	国立情報学研究所 12階会議室
12日(金)		統計科学専攻・大学院説明会	2F 会議室

● 基盤機関の行事

9月

日程	時間	行事名	場所
7月13日(水) -9月12日(日)		企画展示:アジアの境界を越えて	国立歴史民俗博物館
http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/index.html			
7月22日(木) -9月14日(火)		企画展「伝統の布の”いま”—東南アジアのふだん着にみる実情—」	国立民族学博物館 企画展示場 B
http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/dentounonuno/			
7月22日(木) -9月28日(火)		企画展「歴史と文化を救う 阪神淡路大震災からはじまった被災文化財の支援」	国立民族学博物館 企画展示場 A
http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/rekishitobunka/			
4日(土)	11:00-17:30	歴博映像フォーラム 5 「平成の酒造り」	新宿明治安田生命ホール 主催:国立歴史民俗博物館
http://www.rekihaku.ac.jp/events/schedule/index.html			

5日(日)		高エネルギー加速器研究機構 一般公開	KEK
	http://www.kek.jp/openhouse/		
5日(日)	14:30-15:30 (予定)	「文化財保存修復学会第4回業績賞」受賞 関連第172回みんぱくウィークエンド・サロン 「環境問題と博物館の「やさしい」関係」	国立民族学博物館 東南アジア休憩所
	http://www.minpaku.ac.jp/30th/salon2010.html#172		
7日(火)	14:30-15:30	企画展ギャラリートーク	国立民族学博物館 企画展「伝統の布の”いま” —東南アジアの普段着にみ る実情—」会場(企画展示場 B)
	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/dentounonuno/		
8日(水)	18:30-19:45	平成22年度 国立情報学研究所 市民講座 第4回「三次元でモノを見る —3D ディスプ レイを支える映像技術とは?—」	学術総合センター 2階中会議場
	http://www.nii.ac.jp/shimin/		
11日(土)	14:00-16:00	第321回歴博講演会 「島のくらしは旅ぐらし」	国立歴史民俗博物館
	http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html		
11日(土)	13:00-16:40	企画展「歴史と文化を救う 阪神淡路大震災 からはじまった被災文化財の支援」関連文 化財保存修復学会・公開シンポジウム「文化 財をまもる—みんぞく資料をまもる—」	国立民族学博物館 講堂
	http://www.kuba.co.jp/bunkazai-minpaku/index.html		
11日(土)	14:00-18:00	平成22年度 国立情報学研究所 軽井沢土 曜懇話会 第1回	国立情報学研究所 国際高等セミナーハウス
	http://www.nii.ac.jp/karuizawa/		
11日(土)	12:00-15:30	MMP「点字教室」	国立民族学博物館 1階エントランスホール(無 料ゾーン)
	http://www.minpaku.ac.jp/museum/partners/event.html#tenji		
12日(日)	14:30-15:30 (予定)	第173回みんぱくウィークエンド・サロン 「伝統貨幣とともに生きるミクロネシアの人び と」	国立民族学博物館 展示入口
	http://www.minpaku.ac.jp/30th/salon2010.html#173		

9月16日(木) -12月7日(火)		特別展「彫刻家 エル・アナツイのアフリカ— アートと文化をめぐる旅」	国立民族学博物館 特別展示館
http://www.minpaku.ac.jp/special/elanatsui/			
18日(土)	13:30-15:00 開場:13:00	特別展「彫刻家エル・アナツイのアフリカ— アートと文化をめぐる旅」関連第388回みんな くゼミナール 「博物館と美術館の間—美術から見える現 代アフリカの居場所」	国立民族学博物館 講堂
http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar10.html			
19日(日)	14:30-15:30 (予定)	公開講演「神秘化された森と環境保護運動 —ドイツの事例より」関連第174回みんな くウィークエンド・サロン 「ドイツ人と森」	国立民族学博物館 東南アジア休憩所
http://www.minpaku.ac.jp/30th/salon2010.html#174			
25日(土)	13:30-15:30	第138回くらしの植物苑観察会 「江戸時代のバラ」	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑
http://www.rekihaku.ac.jp/events/schedule/index.html#c			
25日(土)	13:30-16:30 開場:13:00	現代ドイツ民俗学の奇才アルブレヒト・レー マン氏連続講演会「神秘化された森と環境 保護運動 ドイツの事例より」	国立民族学博物館 2階第5セミナー室
http://www.soc.nii.ac.jp/fsj/research/international_exchange_symposium2010.html			
26日(日)	14:30-15:30 (予定)	特別展「彫刻家エル・アナツイのアフリカ— アートと文化をめぐる旅」関連第175回みんな くウィークエンド・サロン 「アートと歴史のはざまから—エル・アナツイ のアフリカ展によせて」	国立民族学博物館 特別展示館
http://www.minpaku.ac.jp/30th/salon2010.html#175			

10月

日程	時間	行事名	場所
2日(土)	9:30-17:00	基礎生物学研究所一般公開	基礎生物学研究所
http://open.nibb.ac.jp/			
5日(火)	18:30-19:45	平成22年度 国立情報学研究所 市民講座 第5回「計算機の建築学 —コンピュータ世 界でのアーキテクチャとは?—」	学術総合センター 2階中会議場
http://www.nii.ac.jp/shimin/			
9日(土)	14:00-16:00	第322回歴史博講演会「博物館資料を記す・ 探す」	国立歴史民俗博物館
http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html			

16日(土)	14:00-18:00	平成22年度 国立情報学研究所 軽井沢土曜懇話会 第2回	国立情報学研究所 国際高等セミナーハウス
	http://www.nii.ac.jp/karuizawa/		
22日(金) -23日(土)		三鷹・星と宇宙の日	国立天文台三鷹キャンパス
23日(土)	13:30-15:30	第139回くらしの植物苑観察会「佐倉城址の秋の植物」	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑
	http://www.rekihaku.ac.jp/events/schedule/index.html#c		
10月26日(火) -11月7日(日)		重要文化財 洛中洛外図屏風甲本公開	国立歴史民俗博物館 第2展示室
10月26日(火) -12月5日(日)		旗本本多家資料の世界	国立歴史民俗博物館 第3展示室
	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/special_03_2010.html		
10月26日(火) -12月26日(日)		武士とはなにか	国立歴史民俗博物館 企画展示室
30日(土)	10:30-17:00	第76回歴博フォーラム「声・音・身体の文化をめぐる地域性と国際性」	早稲田大学小野記念講堂 主催:国立歴史民俗博物館

11月

日程	時間	行事名	場所
2日(火)-28日(日)		伝統の古典菊	国立歴史民俗博物館 くらしの植物園
	http://www.rekihaku.ac.jp/events/schedule/index.html#c		
3日(水・祝)	13:30-16:00 (開場:13:00)	みんなく映画会 映像に描かれるく包摂と自律>—国境と民族を越えて— 第7回上映会『トウルール・ヌーン イワノビッチの村』	国立民族学博物館 講堂
7日(日)	14:00-17:00 (開場:13:30)	国際シンポジウム 希望社会への道—スウェーデンと日本におけるウェルビーイングの思想と市民社会—	国立民族学博物館 講堂
	http://www.minpaku.ac.jp/research/fr/20101107.html		
9日(火)	18:30-19:45	平成22年度 国立情報学研究所 市民講座 第6回「研究活動を研究する —未来につながる学術動向をつかむには?—」	学術総合センター 2階中会議場
	http://www.nii.ac.jp/shimin/		
13日(土)	14:00-16:00	第323回歴博講演会「武家の史料学」	国立歴史民俗博物館
	http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html		
20日(土)	14:00-18:00	平成22年度 国立情報学研究所 軽井沢土曜懇話会 第3回	国立情報学研究所 国際高等セミナーハウス
	http://www.nii.ac.jp/karuizawa/		
27日(土)	13:30-15:30	第140回くらしの植物園観察会「文芸作品に見る菊見」	国立歴史民俗博物館 くらしの植物園
	http://www.rekihaku.ac.jp/events/schedule/index.html#c		

【編集後記】

総研大ニューズレター第28号をお届けします。

今年の夏は例年になく暑い夏で、全国的に猛暑日、熱帯夜が続いています。

9月の声を聞いても暑さが治まりそうにありませんが、夜には秋の虫も鳴きはじめ、季節は少しずつ夏から秋へと移っているようです。

さて、本号では各基盤機関等で開催された公開イベントや大学院説明会の記事が紹介されています。8月には各専攻の大学院入試も行われ、イベントや入試などで各機関では夏休みとはほど遠い暑い夏になったように思われます。

◎各専攻で教員や学生がメディアに出演が決まっている場合や、発表や表彰等があった際にはご連絡ください。またメディア等に出演される場合は、可能な限り「総合研究大学院大学」と表記していただけますようご協力をお願いします。

発行 2010年9月1日

編集



国立大学法人

総合研究大学院大学

THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES

広報委員会

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）

総務課広報係（担当）

TEL 046-858-1590/FAX 046-858-1542

E-mail: kouhou@ml.soken.ac.jp

©2010 SOKENDAI